

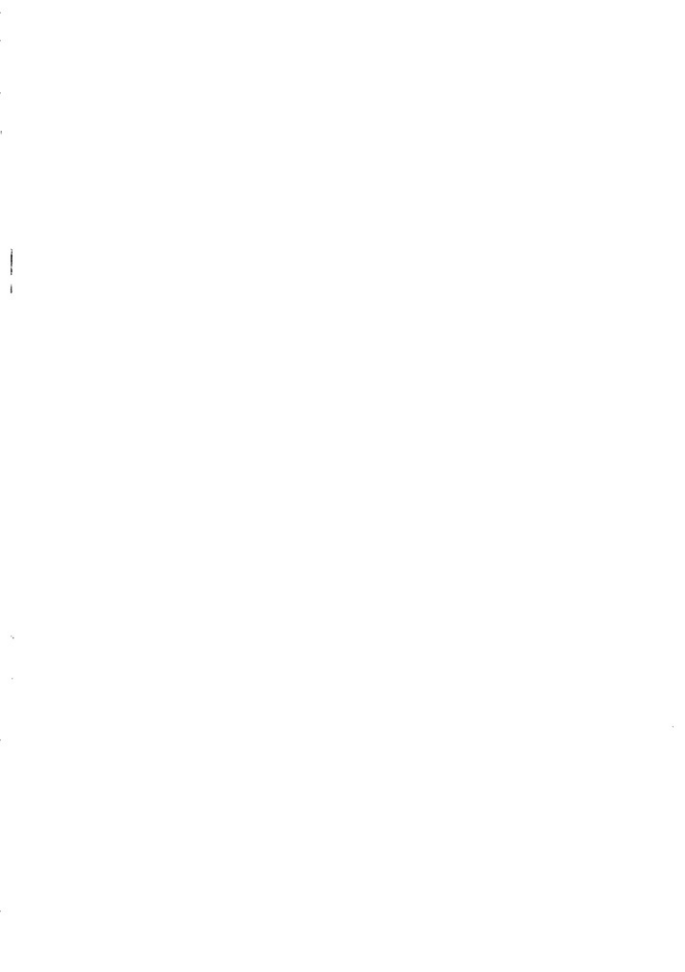
白石町文化財調査報告書第4集

# 妻 山 遺 跡

— A 地 区 —

平成5年3月

佐賀県白石町教育委員会



白石町文化財調査報告書第4集

# 妻 山 遺 跡

- A 地 区 -

白石町位置図



平成5年3月

佐賀県白石町教育委員会

# 序

この報告書は、佐賀県農業基盤整備事業の施行に先がけて、平成3年度に実施した妻山遺跡A地区の調査報告書です。

白石町では昭和62年度から本格的な文化財調査を開始し、杵島山丘陵東山麓部を中心として弥生時代から奈良時代にかけて古代の様相が、少しずつ明らかになってきています。

遺跡は、我々祖先の生活の営みを具体的に示してくれる貴重な文化遺産です。町民の共有財産として、未来に保存していくことは、現代を生きる我々の重大な責任であります。

今回の発掘調査によって得られた貴重な成果が、白石町の歴史を解明する資料となり、文化財に対する理解と啓蒙の一助となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、今回の調査にあたりご理解とご協力を賜りました佐賀県農林部・佐賀県教育委員会・白石町土地改良区（課）・並びに地元関係各位に、心からお礼申し上げます。

平成5年3月

佐賀県白石町教育委員会  
教育長 吉 田 忠

## 例 言

1. 本書は農業基盤整備の地盤対策事業に伴い、平成3年度に実施した妻山遺跡A地区の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、佐賀県農林部の委託を受けて、白石町教育委員会が実施した。
3. 遺構平面実測は、有限会社埋蔵文化財サポートシステムに委託した。
4. 空中写真撮影は、有限会社空中写真企画に委託した。
5. 遺構及び出土遺物の写真撮影は、調査員が行った。
6. 出土遺物の整理・復元は整理作業員が、実測・製図は調査員が実施した。
7. 本書の執筆・編集は、渡部俊哉が実施した。

## 凡 例

1. 遺構番号については、各遺構毎に一連番号とし、SK=土壌、SD=溝の分類番号を標記した。
2. 挿図中に用いた方位は、磁北を示す。
3. 図版内の遺物写真については、挿図と対照できるように（ ）内に挿図番号と挿図内遺物番号を併記した。

## 本 文 目 次

I 序説	1	III 調査の記録	6
1. 調査にいたる経緯	1	1. A地区の概要	6
2. 調査体制	1	2. 遺構と遺物	6
II 遺跡の位置と環境	2	(1)土壌	6
1. 遺跡の位置	2	(2)溝	8
2. 歴史的環境	2	IV まとめ	10

## 挿 図 目 次

Fig. 1	町内主要遺跡分布図	3
Fig. 2	調査地区位置図	4
Fig. 3	S K016実測図	6
Fig. 4	S K028実測図	7
Fig. 5	S K029実測図	7
Fig. 6	S K030実測図	8
Fig. 7	S K001・016・028・030出土遺物実測図	8
Fig. 8	S D001断面実測図	9
Fig. 9	S D001出土遺物実測図	9
Fig. 10	遺構配置図	11~12

## 図 版 目 次

P L. 1.	1. 妻山遺跡全景
	2. 妻山遺跡全景 (南上空から)
P L. 2.	1. S K016 (北から)
	2. S K016 (西から)
	3. S K028 (南から)
	4. S K029 (南から)
P L. 3.	1. S K030 (東から)
	2. S D001 (南から)
	3. S D001 (北から)
	4. S D001 (西から)
P L. 4.	S K001・028・030、S D001出土遺物
P L. 5.	S D001出土遺物

# I. 序 説

## 1. 調査にいたる経緯

白石町では、平成3年度に県営地盤沈下対策事業として0.1haが計画された。このため、前年度に佐賀県文化財課の協力を受け、水路計画部分の文化財確認調査実施したところ、弥生土器・近世陶磁器の出土がみられ、当該時期の集落の存在することが推定された。確認調査結果に基づき、佐賀県農林部・佐賀県教育委員会・白石町土地改良区(課)・白石町教育委員会の四者で協議を重ねた結果、削平される水路計画部分については発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を図ることになった。

佐賀県農林部の委託を受けて、白石町教育委員会が平成3年度に実施した。

## 2. 調査体制

調査体制	白石町教育委員会
事務局	教 育 長 吉 田 忠 社会教育課長 副 島 繁 社会教育係長 栗 山 和 久 社会教育課主事 武 富 健 " 瀬 戸 口 玲 子

調 査 員 社会教育課主事 渡 部 俊 哉

調 査 指 導 佐賀県教育委員会文化財課

発掘作業員 香月ヤスエ・松尾タエ子・石橋好江・野田ミツヨ・前田シヅヨ・石橋ハツヨ  
栗山君子・栗山好枝・大川内ハツ子・木村チヨノ・鶴崎敏子・角 ヤス

整理作業員 稲富敬子・湧上房枝・田中順子・山口登美子・副島武子・江口幸子・溝口京子・溝口則子

調 査 協 力 地元各位・佐賀県農林部・白石町土地改良区(課)

## II. 遺跡の位置と環境

### 1. 遺跡の位置

妻山遺跡は白石町大字馬洗字馬洗に位置する。白石平野西端をほぼ南北に延びる杵島山丘陵から東に延びる妻山丘陵東端の南山麓部分、標高約3.8mの水田地帯に存在する。遺跡の東約100m地点には、県道錦江・大町線が北西から南西へと走る。

南山麓部に広がる集落に沿って、西側から東側へと小水路が走り、調査地区内でもこの小水路の旧水路が一部検出されている。

### 2. 歴史的環境

白石平野における古代の遺跡分布は、主に杵島山丘陵の東側山麓部に集中する傾向にある。このことは、白石平野が西側から東側へと自然に陸地化していったという地形的な条件に依るところが多いものと考えられる。

現在までの時点で、発掘調査によって判明している状況を述べると、縄文時代の遺跡については不明な点が多い。高城跡西方の船野遺跡において晩期の鉢等が出土しているが、明確な遺構に伴うものではなく、またその数も少量である。本格的な集落が形成されるのは、弥生時代からである。前期末から中期後半にかけて船野遺跡が大規模な集落として登場する。軟弱地盤という白石平野独特の地形的条件により、堅穴式住居ではなく横木・枕木を使用する「根がらみ工法」や礎板を使用した高床式建物のみが検出されている。全貌は未確認であるが、全長約90cmを計る泉下でも類例をみない大きな礎板が使用されている高床式建物も1棟検出されている。続く後期になると、高城跡南方の湯崎東遺跡が形成され、船野遺跡と同じく「根がらみ工法」を使用する高床式建物が検出されているが、「筏基礎工法」をとる一間四方の高床式建物も確認されており、地盤沈下に対する技術の進歩が窺われる。

妻山丘陵において昭和36年の林道工事中に、数基の甕棺と箱式石棺・石蓋土壇各1基が発見されている。

古墳時代の遺跡としては、前期～後期の湯崎東遺跡、後期の久治遺跡・多田遺跡が知られている。これらの各遺跡からは、住居跡が検出されておらず不明な点が多いが、湯崎東遺跡からは陶色産の甕が検出されている。杵島山系から延びる小丘陵の尾根上には多数の古墳が築造されているが、前期に溯る古墳は確認されていない。5世紀末から6世紀初頭の古墳として、妻山神社西方の妻山古墳群1号墳や船野山古墳群1号墳（通称、かぶと塚―白石町史跡）が知られている。船野山古墳群1号墳については昭和48年に県文化課の調査により、径約40mの円墳に内包される全長約8mの単室兩袖式横穴式石室から鉄刀・鉄剣・鉄鎌・短甲片が出土し、墳丘からは線刻のある円筒埴輪片が採集されている。湯崎地区には、4基の小円墳を伴い全長約40mを計る前方後円墳の湯崎古墳群が築造されている。詳細は不明であるが、6世紀代の築造と考えられる。この他、後期の群集墳が多数形成されていたのだが、大多数がみかん園造成の際





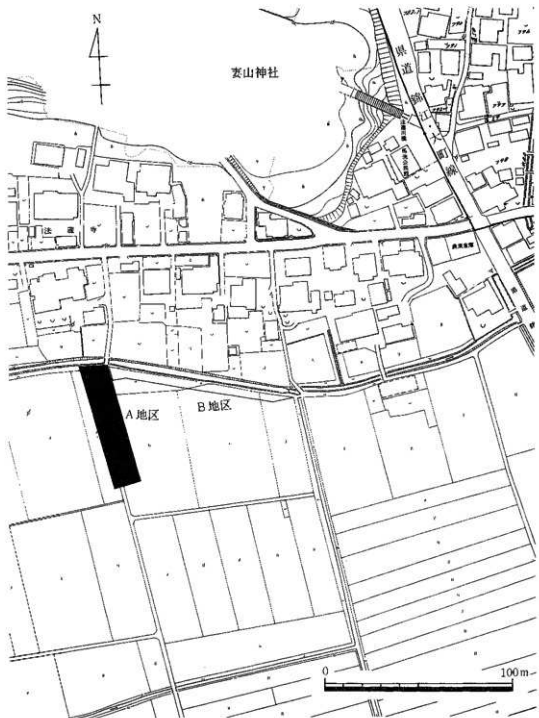


Fig. 2 調査地区 (A地区) 位置図 (S=1/2,000)

に消滅し、当初の姿を留めるのは野柄古墳群1号墳（白石町史跡）等少数である<sup>④</sup>。

奈良時代の遺跡としては、湯崎東遺跡・久治遺跡・多田遺跡が知られる。湯崎東遺跡からは無記銘であるが付札木簡1本が、多田遺跡からは「大神部」と記される木簡、比較的多数の墨書土器等が出土しており、杵島山系東方における中心的な集落であったと推定される。

中世以降の状況については、あまり発掘調査が実施されておらず詳細の不明な点が多い。戦国時代末期に高城主平井経治と佐賀の鹿造寺隆信との間で4度にわたる激しい戦闘が繰り広げられたが、高城跡北西部にあたる船野遺跡内から高城内濠跡の一部が検出されている。吉村遺跡からは17世紀後半～18世紀前半の唐津焼・伊万里焼の肥前陶磁器が、湯崎東遺跡からは近世墓地跡が、多田遺跡からは近世の環濠と推定される遺構が検出されている。

#### 〔文献〕

- ①『佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書 10』佐賀県教育委員会 1992年
- ②『佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書 8』佐賀県教育委員会 1990年
- ③『白石町史』1974年
- ④『多田遺跡－A・B・C・D地区－』白石町教育委員会 1993年  
『多田遺跡－E・F・G・H・I・J地区－』白石町教育委員会 1992年
- ⑤『佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書 4』佐賀県教育委員会 1986年
- ⑥ 文献③に同じ
- ⑦ 佐賀県教育委員会により、墳丘平面実測図が作成されている。
- ⑧『白石町の文化財』白石町教育委員会 1988年
- ⑨『佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書 6』佐賀県教育委員会 1988年

### III. 調査の記録

#### 1. A地区の概要

南北水路予定地を発掘調査したが、耕作土を除去すると直下に遺構面が現れた。検出された遺構は、土壌と調査地区北側を東流する小水路の旧河道である。上墳は多数確認されたのだが、大半は浅く遺物もほとんど出土しない。遺物の出土した土壌も近世以降のものである。

#### 2. 遺構と遺物

##### (1) 土壌

##### SK001

調査地区南西部で検出された不整形の土壌だが、全体は確認できなかった。検出された範囲では、南北長12.5m、東西長4.3m、深さ0.1mである。出土遺物としては土弾がある。

##### SK001出土遺物 (Fig. 7-1)

全長4.5cm、厚さ2.3cmを測る。ほぼ完形。

##### SK016 (Fig. 3)

南北長5.0m、東西長4.5mを測る不整形の土壌で、深さは西側で0.5m、東側で0.3m。南東部には乱雑な掘り込みがみられる。

底部付近に草状植物が厚く堆積し、底部からはビール壺が出土した。

##### SK016出土遺物

(Fig. 7-2~4)

2は白磁碗で復元高台径6.4cm。淡緑灰色の釉がかかる。胎土は淡灰色。3は青磁碗か。高台径4.2cm。淡青灰色の釉がかかるが、高台部は淡茶灰色を呈する。4は白磁長頸壺か。復元口径3.4cm。薄青白色の釉が全面にかかる。

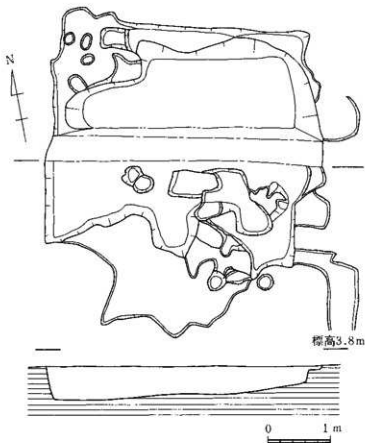


Fig. 3 SK016実測図 (S=1/60)

**SK028 (Fig. 4)**

S D001の西側で検出された南北長1.65m、東西長1.1mを測る楕円形の土場で、南側は三段の掘り込みがみられる。深さは0.9mを測る。

**SK028出土遺物 (Fig. 7-5・6)**

5は陶器土瓶の蓋で、復元口径7.1cm。全体に淡茶灰色～淡茶褐色の釉がかかり、天井部外面には、鉄釉で紋様が描かれる。6は染付碗で、復元口径6.6cm、器高5.1cm。淡灰黄色の釉がかかり、畳付は露胎。体部外面に紋様が描かれる。

**SK029 (Fig. 5)**

SK028のすぐ北側で検出された、南北長2.3m、東西長1.5mを測る楕円形に近い土場である。南側は二段掘りを示し、深さは0.85mを測る。底部には4ケの小穴が見られる。

陶磁器片が出土したが、いずれも小片のために図示できなかった。

**SK030 (Fig. 6)**

S D001の東側で検出された長径1.9m、短径1.4mを測る楕円形の土場で、S D001が埋没した後に掘られている。掘り方は南側に比べて北側がやや急である。深さは1.1mを測る。

**SK030出土遺物 (Fig. 7-7)**

京焼風の陶器碗で、復元高台径4.6cm。高台部以外に暗黄色の釉がかかるが、細かい貫入が全面に見られる。胎土は淡灰黄色、見込みに草花文が描かれる。高台内面中央に刻印があるが、欠失しており不明。

このほかに、図示できなかったが弥生土器の台付甕の脚部片が出土している。

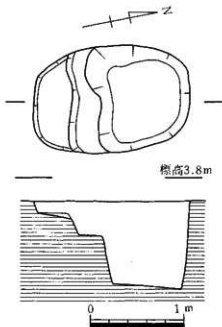


Fig. 4 SK028実測図 (S=1/40)

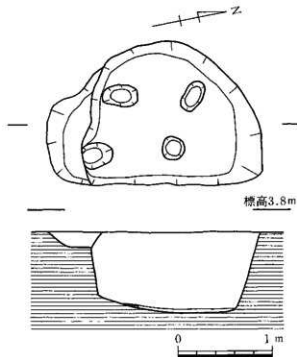


Fig. 5 SK029実測図 (S=1/40)

(2)溝

S D001 (Fig. 8)

調査地区北側を東流する小水路の旧河道で、北側から約14m南流し、ほぼ直角に東側へ約7m折れ曲がる部分を検出した。これより東側の旧河道がB地区においても確認されている。

最初は東側の幅約6～7m、深さ20cmの水路であったが、暗青褐色粘質土によって埋められている。埋土からは、弥生土器・須恵器・土師器・土弾・陶磁器片が出土している。

その後、西側で幅約7～8mの浅い水路に掘り直されている。埋土は淡茶砂質土で小礫が非常に多く、固く締まっていた。

地元の人の話によると、この水路は昭和30～40年代に埋め戻され、新たに北側に直線状に東流する水路が掘られたそうである。

S D001出土遺物 (Fig. 9)

ここでは暗青褐色粘質土から検出された土器等を図示する。

1～8は弥生土器である。1は復元口径23.8cmを測る高坏であろう。口縁端部が逆L字状に屈曲する。横ナデ調整。2は甕の底部で復元底径5.8cm。底部が厚く、ナデ調整。3～6は脚部のみである。3は復元脚径9.8cm。外面に縦方向ハケ目が施されるが、ほとんど消えている。4は復元脚径9.6cm。器表が荒れており、調整不明。5は復元脚径9.6cm。調整不明。6は復元脚径9.2cm。横ナデ調整か。7は用途不明の手握け土器で、最大径7.7cm。ナデ調整。

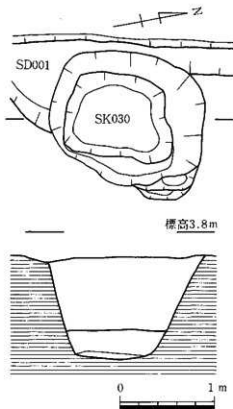


Fig. 6 SK030実測図 (S=1/40)

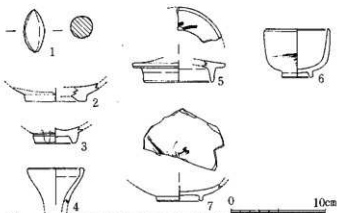


Fig. 7 SK001-016-028-030出土遺物実測図 (S=1/4)

8は土彈で全長4.6cm、最大径2.6cm。  
 この他に図示できなかつたが、6世紀後半の須恵器杯小片がある。

9・10は染付碗で9は復元口径12.2cm、器高3.2cm。暗灰青色の釉がかかり、内面には二重圈線の上に草花文等が、外面にも草花文が描かれる。疊付に砂目地が付着する。10は復元口径7.8cm、器高4.2cm。暗灰青色の釉がかかり、疊付は露胎。外面に紋様が描かれる。11は陶器土瓶の蓋で、復元口径8.6cm。天井

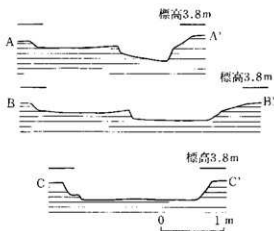


Fig. 8 SD001断面実測図 (S=1/60)

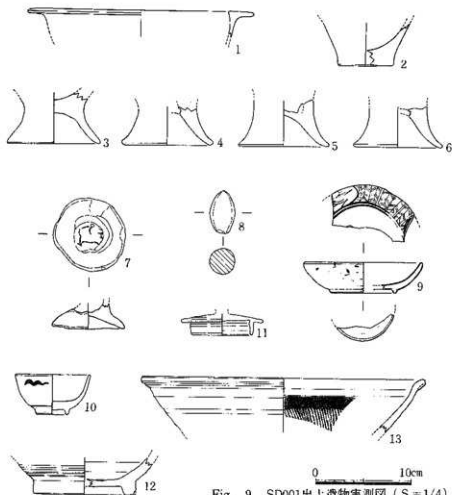


Fig. 9 SD001出土遺物実測図 (S=1/4)

外面に暗茶褐色の釉がかかる。13は陶器の底部で復元高台径12.8cm。暗茶褐色の釉がかかるが、内面と畳付は露胎。13は陶器罎鉢で、口縁端部が下方に折れ曲がる。復元口径29.8cm。内面に縦方向ハケ目が施される。

## IV. 小 結

今回の調査で検出された遺構は、土壌が大半であるがほとんど遺物が出土しておらず、また遺物の伴う土壌等も比較的最近のものであることが判明した。

しかしながら、溝等の埋土から弥生土器・土師器・須恵器小片等が出土していることから、調査地区周辺に古代の集落の存在した可能性が考えられる。このことは、B地区から弥生土器を含む包含層が検出され、そこから石包丁片も出土していることから窺えるであろう。

妻山遺跡北東約400m地点で調査された馬洗上黒木遺跡からも、弥生時代中期を中心とする土器・土師器、古墳時代の土師器・須恵器等が出土し、また妻山丘陵東端に遺物の散布地が存在することから、弥生時代中期を中心とする船野遺跡や弥生時代後期の湯崎東遺跡の他に、同時期の集落が妻山丘陵東端付近の比較的広い範囲で推定されるのである。



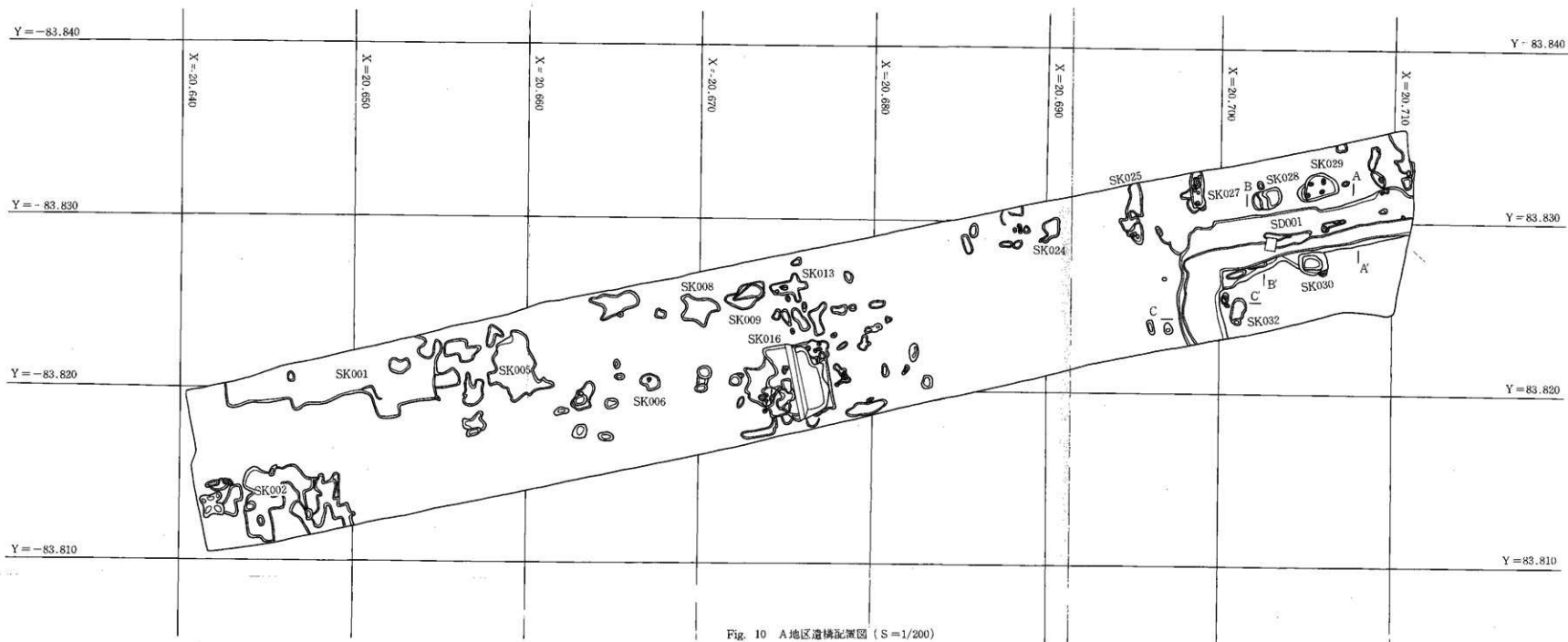
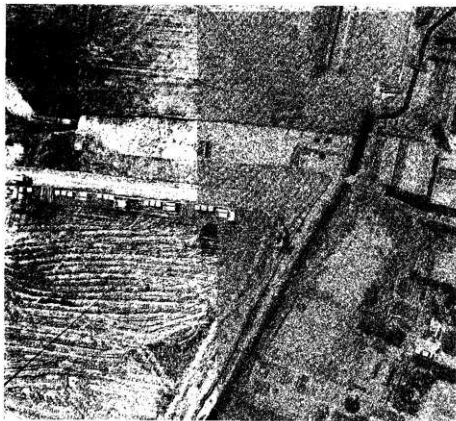
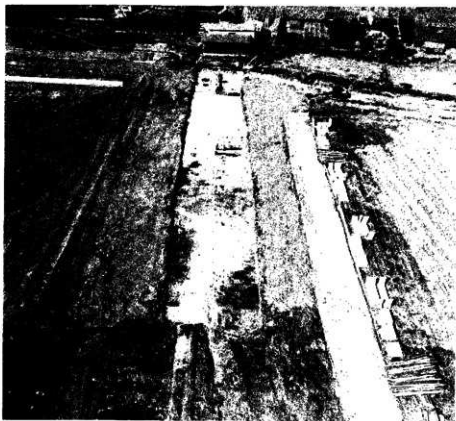


Fig. 10 A地区遺構配置図 (S=1/200)

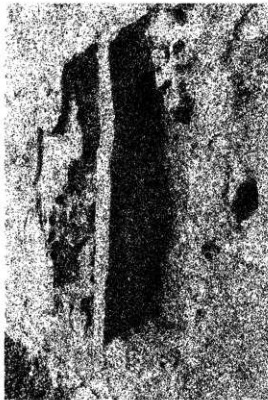
圖 版



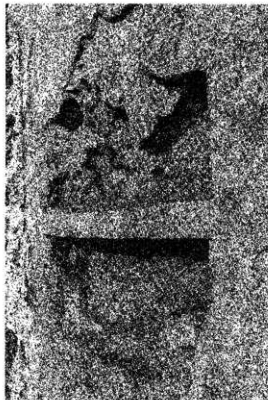
妻山遺跡全景



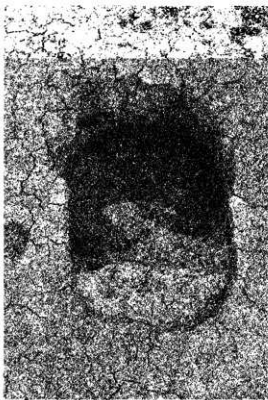
妻山遺跡全景（南上空から）



1. S K016 (北から)



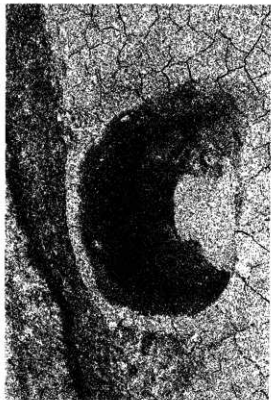
2. S K016 (西から)



3. S K028 (南から)



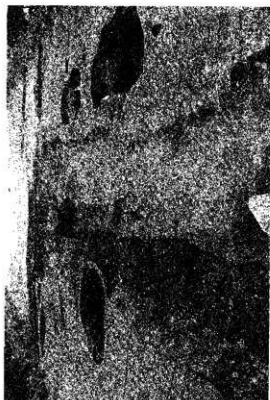
4. S K029 (南から)



1. S K030 (東から)



2. S D001 (南から)



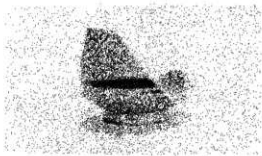
3. S D001 (北から)



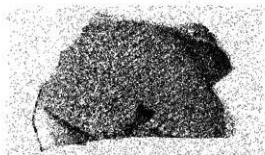
4. S D001 (西から)



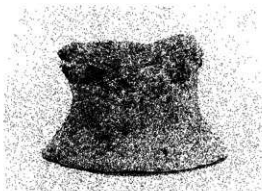
1



2



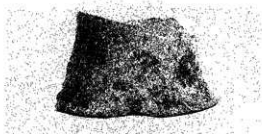
3



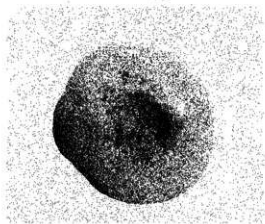
4



5



6



7

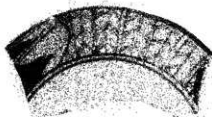
1. S K001 (7-1)
2. S K028 (7-6)
3. S K030 (7-7)
4. S D001 (9-3)
5. S D001 (9-4)
6. S D001 (9-5)
7. S D001 (9-7)



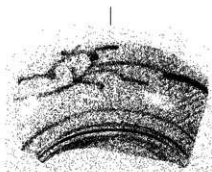
1



3



4



2



5

- 1. S D001 (9-8)
- 2. S D001 (9-9)
- 3. S D001 (9-10)
- 4. S D001 (9-11)
- 5. S D001 (9-12)

白石町文化財調査報告書第4集

# 妻 山 遺 跡

— A地区 —

平成5年3月31日

発行 佐賀県白石町教育委員会  
佐賀県杵島郡白石町大字福田1809番地1

印刷 鹿島印刷株式会社  
佐賀県鹿島市古枝甲249番地3



